

新年あけましておめでとうございます。私が幼い頃、正月に家族や親戚がそろって、大人達がこの一年のことや家族の将来のことを話すのを聞きながらおせち料理を食べた楽しい思い出があります。ところが、大人になると兄弟それぞれが家庭を持ち、生活拠点も異なりますから、大家族の団らんが難しくなってきたように思います。

さて、今月の特集では、鉄道のさまざまな分野で用いられている予測技術を紹介しました。これらは、災害危険度や設備劣化状態などの将来を予測する技術で、最近では数値モデルを用いたシミュレーション技術が役立っています。また、現場の測

定では分別できない一つひとつの因子の影響度合いも明らかにすることが可能です。もちろん、数値モデルや入力パラメータが実態を正しく表現しているか、どの程度の計算誤差が含まれるかなどについては、現場の状況をつぶさに調べて計算結果の検証を続ける必要があることは言うまでもありません。今後のコンピューター技術の発展とともに、これらの予測技術もますます高度化して、鉄道の発展に貢献することが期待されます。

次号では、「電気鉄道」について特集します。日本の電気鉄道120年の歩みと展望を紹介します。ご期待ください。(H. C.)